

## 「フィリピン研修参加報告書」

京都大学文学部2年 大友葵

昨年5月ごろから JFC(Japanese- Filipino children)の中学生の学習支援を行い、同時に主にフィリピン人女性に関する移民問題など大学の講義を受けていた。それまで移民問題にしっかりと目を向けたことがなく知識がほとんどなかったせいで、問題があるというのは理解できたが何が実際に問題なのかというのは不明瞭な部分が多かった。

一緒に勉強に取り組んでいる JFC の中学生たちはフィリピンと日本の狭間で様々なことに悩んでいた。自分がいまだに経験したことがないようなことに悩んでいる中学生たちを見て、なぜこのような状況が生じているのか知る機会になればと思い研修に参加した。フィリピンでは、道路の整備をされておらず信号もなく、大通りの車の間を小さい子供たちが物乞いをしていたり、洗車をしないかと窓ガラスをノックしてくる大人がいた。また、スラム街・中流階級の住居・高層ビルが一つの風景のなかに共存していた。日本では見ない光景に驚きともなんともいえない感覚を抱いた。研修のなかで、CFO(Commission on Filipinos Overseas)の方、現存する JFC の問題に法的に対処しているマリガヤハウスの方、エンターテイナーとして来日することを目指す女性たち、日本人男性と結婚してこれから来日する方々、日本へ出稼ぎに行くために日本語や家事などのトレーニングを受けている方など、さまざまな方々と話しをさせていただく中でこれまで自分のなかで不明瞭だったことを理解することが出来、知らなかった知識・世界、また、日本側の問題点をも知り今までの自分の知見の狭さを実感した。また、英語力不足のために自分の言いたいことが表現出来ず、相手の言っていることを十分に理解できなかったため、英語力の向上が必要であると感じた。

フィリピンでは家族の仲がとてもよく、親が出稼ぎに出る子供は親族が面倒を見、介護は皆で行うのが当たり前であるらしい。また日銭を稼ぐために観光客に商品を売り歩いている子供たちでも笑顔が見られた。現代の日本は核家族化が進み家族内でも人とのつながりが弱くなっていると言われていた現状であり、ホームレスの人が笑顔で生活しているのを少なくとも私は見たことがない。話をきいたフィリピンの方々の中には日本に行きたいと言っている方も多かったが、中学校の JFC の子の中にもフィリピンに居たときは毎日楽しかったと言っている子もおり、果たして日本とフィリピンどちらの生活が幸せなのか、実際に日比間での問題は存在する現状で一概にいうことは出来ないが自分の中で大きな疑問が生じ、今後もこの問題に関わっていきたいと思った。実際に海外に行き現地の方々と交流ができたこの研修は参加しなければ感じる事のなかったことが多くあり、自分の中でこの分野への関心を大いに高め、今後さらに学んでいく意欲が高まった大変いい機会であった。